

令和7年度
事業計画書(案)

社会福祉法人ときわの杜
特別養護老人ホームときわの杜

令和7年度ときわの杜事業計画（案）

—業務イノベーションでプライドケアの完成を目指す—

<はじめに>

介護保険制度は、2000年の制度創設以来25年を経過し65歳以上の被保険者数が2倍に増加する中でサービス利用者は3.5倍に増加。要介護認定者数は2020年度末で682万人。この25年間で約3倍になっています。一方、介護保険にかかる給付費は2020年度に10兆円を超え年々増加しています。施設入所支援には33.4%が使われ、特別養護老人ホームには8340施設で約2兆円が給付されます。85歳以上の高齢者は2035年ごろまで急増し2060年まで増加傾向が続く推計が示されています。一方、これに対応する介護職員は2025年度243万人2040年度で280万人が必要とされ、コロナ以降の人材難は特に深刻であることから国は①介護職員の処遇改善②多様な人材の確保・育成③離職者防止定着促進・生産性向上④介護職の魅力向上⑤外国人材の受け入れ環境整備など総合的な介護人材確保委対策に取り組んでいますがいずれも抜本的な解決には至っていません。今後も高齢化と高齢福祉費、福祉人材難は続伸することが予想され、福祉施設の運営は諸物価高騰から大変厳しくなることが想定されます。

こうした中、特別養護老人ホームときわの杜では、豊富な人材力を生かして丁寧な介護サービスの確保を進めてきましたが、近年に同業者の増加や、居宅・地域系サービスの増加による多様な地域移行が進んでいるため入居者の確保が円滑に進まず、相部屋が多いことから新型コロナ等感染症発生時の経営影響も顕著になっています。これらの課題に対応するため、令和7年度は職員参加のSWOT（環境影響）分析による施設運営方策をとりまとめ、昨今の社会動向や施設の現状を勘案して第1期中期事業計画「ときわの杜ビジョン2029」を策定しました。令和7年度は本計画に基づく新たな施設運営の始まりとします。

<基本理念>

利用者の人権と人格を心から尊重するプライドケアを旨とし、健康で安心安全、安楽な日々の生活を実現します。

<基本方針>

- 1 人権人格を尊重する介護サービスの推進
- 2 健康で安心安全、安楽な介護サービスの推進
- 3 業務効率化と介護スキルアップの徹底
- 4 快適な施設生活を実現する環境整備
- 5 事業可視化と地域交流推進
- 6 組織統制に基づく順法精神の確立

■重点事業

1 人権人格を尊重する介護サービスの推進

長い間社会と家族に貢献してきた利用者の人生を心から尊重敬愛し、一人ひとりが尊厳をもって余生を送っていただくプライドケアの完成を目指します。安心安定した生活実現のため、成年後見制度はじめ看取りを視野に入れた体制整備を進めます。

1) 権利擁護と虐待防止

| | 事業名 | 方策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-------------------|-----------------------------|--------|---------------------|
| ① | 虐待防止体制強化と職員対応 | 虐待防止委員会による虐待事案の未然防止と職員研修の徹底 | 毎月1回開催 | 虐待のない施設環境で安心して生活できる |
| ② | 基本的人権を尊重した後見制度の適用 | 成年後見制度及びその他の後見制度活用による認知症対策 | 年度内 | 認知症利用者の安心増進 |

2) 人権人格を尊重したサービス

| | 事業名 | 方策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-------------------|----------------------------|-----------------------|-------------------------|
| ① | 利用者個々の人格を尊重したサービス | 人生観と嗜好、希望を理解したきめ細かなサービスの創生 | 年度内 美容介護 こころの介護 | 利用者の満足度向上で精神安定と認知症防止に寄与 |
| ② | 看取りサービス導入 | 対応医師との提携やエンゼルケアなど介護員の人材育成 | 年度内 調査検討 | 利用者の安心向上及び施設経営基盤の改善 |

2 健康で安心安全、安楽な介護サービスの推進

利用者が健康で安心安全、安楽に日常生活を送っていただくため、漏れのない全数把握施設サービスを業務標準とします。健康で長生きすることを前提に、病気や災害時の的確迅速なリスク管理や、楽しく生きがいある施設生活を実現する様々な事業を展開します。

1) 医務介護連携の健康管理と感染症対策

| | 事業名 | 方策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|---------------------|--------------------------------|-----------------------|----------------------|
| ① | 医務介護の連携による切れ目ないサービス | 利用者の健康常態の全数把握を徹底する。診断ツール運用も検討。 | 年度内 カンファ試行 AI研究 | 健康急変を未然に察知し救命率が向上する。 |
| ② | 感染症対策の高次レベル対応 | 感染対策手順更新。空気殺菌清浄機導入。 | 罹患率前年比 20%減 | 感染症罹患率を下げる。 |

| | | | | |
|---|-----------------------|---------------|-------------|------------------------|
| ③ | ADL 維持改善のための新リハビリシステム | 新システム実施計画策定推進 | 年度内 計画策定 | 利用者の ADL 日常生活動作が維持される。 |
|---|-----------------------|---------------|-------------|------------------------|

2) 防災防火防犯制強化

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-----------|--------------------------------|--------------------|----------------------|
| ① | 防災防火体制の強化 | 現状現実に応じた防災防火訓練を実施する | 12 回/年 夜間・地震対応も | 利用者の安全安心が確保向上する。 |
| ② | 防犯体制の強化 | 防犯用具を配備し、警察署と連携した実効的防犯訓練を実施する。 | 1 回/年 防犯対応技術の習得 | 職員の防犯技術と非常時の連携が向上する。 |

3) 食の満足と生きがい増進

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-----------------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① | 健康で美味しく、季節感ある食事の提供と開発 | 温冷配膳車や新調理機材を導入検討し、地産地消を推進します。 | 年度内 地産地消 50% 以上達成 | 美味しく快適な食事を提供し、食の満足が向上する。 |
| ② | 生きがい創生とクラブ拡充 | 新クラブを創生し必要な施設改修を行う。外出行事も増発する。 | 12 クラブ 遮光カーテン 歴史探訪 | 心へ適度の刺激と満足感を与え認知症対策に寄与。 |

3 業務効率化と人材確保育成

効率効果的な業務のため業務マニュアルを策定する必要があります。これを基にした能力評価制度で職員資質の向上を目指します。さらに、安定した人材を得るため、外国人登用や働き方改革に基づく環境整備を進め、業務 DX（デジタル化）で効率化を促進します。

1) 効率効果的な業務改革と人材育成

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|--------------------|--------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| ① | 効率効果的な業務マニュアルの設定運用 | 介護、医務、給食、事務等の業務手順書を時間軸で作成する。 | 年度内 20% 5 年で完成 | 指導基準となり人材育成の均一化が図られる。 |
| ② | 業務目標管理、能力評価制度の導入推進 | 正職員の業務目標管理と全職員対象の能力評価制度を実施する。 | 年度内正職員 実施。能力評価は試行 | 職員の経営参加意識醸成とモチベーション UP |
| ③ | 研修計画に基づく人材育成 | 管理監督者及び専門人材育成、新人教育を公平計画的に実施する。 | 年度内 AED 救急救命指導者講習 2 名 | 職員資質が向上し全業務のレベル UP に寄与。 |

2) 働き方改革と外国人登用

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|----------------|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| ① | 働き方改革と子育て支援 | 心のケア相談室、企業内保育所、介護ロボット導入を検討推進。 | 年度内 整備計画立案 一部導入 | 職員の健康増進により人材確保にも寄与する。 |
| ② | ハラスメント対策 | 外部委員を含む相談体制整備と職員のハラスメント研修会を開催。 | 年度内整備 研修会2回/ 年 | ハラスメントの発生を抑制し職場環境を改善。 |
| ③ | 外国人材の登用推進と環境整備 | 専任者を含む推進体制を構築し登用計画に基づく受入環境を整備。 | 年度内 計画立案と準備調整 | 人材確保によるサービスの持続安定を図る。 |

4 安全で快適な施設生活を実現する環境整備

ときわの杜は築後20年を経過し内外設備の旧態化が進んでいます。令和6年度に空調給湯設備の大規模修繕を実施しましたが、その他の設備も計画的な修繕が必要となっています。さらに将来的な社会変化に対応し先進機能を持つ施設の研究を始める一方、現施設の災害や感染症リスク対応も進める必要があります。

1) 施設機能改修と環境美化

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|--------------|----------------------------------|-------|-----------------------|
| ① | 施設機能向上計画の策定 | 補修が必要な中庭テラス及び光庭、廊下天井などを計画的に修繕する。 | 年度内 | 衛生と美観が保たれ快適な生活環境を提供する |
| ② | 環境美化とアメニティ整備 | 施設内の不要物を整理し、観葉植物や絵画を配置及び掲示する。 | 年度内 | 施設の整理美化で利用者の精神安定を高める。 |

2) 施設の将来構想と災害対策

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-----------------|---|------------------|--------------------------|
| ① | 先進的な施設構想の策定 | 業務DXやAIの研究導入を進めながら将来の施設改築構想を策定する。 | 年度内 基本構想着手 | 先進技術理解を高め将来の改築に備える |
| ② | 災害に強い施設整備と業務効率化 | 非常用電源確保とV2H、GHP等で電源多様化、飲料水確保、在宅勤務体制整備を推進する。 | 年度内 検討～整備計画立案 | 大規模災害でも業務継続できる施設運営が実現する。 |

5 事業可視化と地域交流推進

福祉施設は業務内容が家族や地域から正しく理解されることが重要です。この意味でと
きわの社は事業の可視化を強力に進めます。地域が理解しやすい広報手段を取ることで地
域交流に根差した施設運営の実現を図ります

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|------------------|---|---------------------------|-------------------------------|
| ① | 広報拡充と情報共有 | 利用案内・広報紙のリニ ューアル、ホームページ 更新、ビデオ面会実施等 | HP 毎月更新 新広報紙2回 ／年発行 | 施設活動が正し く理解され、利 用者増に資する |
| ② | 小中学校等の介護体験 実習 | 小中学校の校外学習を受 け入れ、高校及び専門学 校生の実習イベント開催 | 校外2回／年 実習1回／年 | 施設理解促進に より利用者と職 員確保に資する |
| ③ | 地域催事参加と講師派 遣 | 小中学校や公民館等の催 事に積極参加し社会福祉 や施設理解を深める。 | 福祉1回／年 地域5回／年 | 地域貢献により 施設と福祉理解 が高められる。 |

6 組織統制に基づく順法精神の確立

本施設は現代企業体にふさわしい順法精神（コンプライアンス）で全業務を執行し、地
域や上部機関の信頼を獲得しなければなりません。これは明確な組織統制（ガバナンス）
により執行されます。組織改革や職員の意識改革も必要です。

| | 事業名 | 方 策 | 目標及期限 | 期待される成果 |
|---|-----------------------|--|--------------------|-------------------------------|
| ① | 各種契約及び金銭管理 の見直し | 請求支払業務の各種契 約、通帳印鑑管理、現金 取扱を適正化する。 | 年度内 改善 | 不正のない業務 執行で施設の信 頼が向上する。 |
| ② | 職員の意識変革による 組織統制の推進 | 組織統制が機能する組織 づくりと意識改革 | 年度内 実施 | 組織統制された 施設の運営基盤 が整備される。 |
| ③ | 虚礼廃止の徹底 | 古来の慣習や虚礼を廃止 し、合理的かつ合法的な運 営を規範とします。 | 年度内 段階的虚礼廃 止 | 合理的経営は地 域の信頼性を向 上させる。 |
| ④ | 交通安全意識の徹底 | 飲酒運転交通事故撲滅の 統制 | 公用車運転従 事登録・研修 | 交通事故、違反 のない施設で地 域信頼性を向上 |

※略語解説

DX：デジタルトランスフォーメーション：業務のデジタル化 AI 導入により革新的な効率化を行う。

AI：人工知能。ビッグデータを解析することで必要な業務判断が瞬時に行えるようになり、これを使った機器が開発されている。

AED：自動体外式除細動器 心停止した心臓に電気ショックを与え救命する機器

V2H：太陽光パネルで電気自動車の蓄電池に充電し、これを家庭用電源に使用するシステム。災害時の停電時に非常用電源となる。

GHP：ガスヒートポンプ発電機。災害停電時に LP ガスエンジンで発電供給するシステム。

SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。YouTube やインスタグラムなどインターネットを利用したコミュニケーションツール

BCP：事業継続計画。大規模災害やコロナの危機があった際の事業継続プラン。令和 6 年 3 月末までの策定が義務付けられている。